

看護学生における介護保険施設の就労イメージ

—就労動機に関する意識調査—

東 孝至, 栗山 真由美

看護学講座 生活支援看護学ユニット

【研究目的】少子高齢化が進むなかで看護師の就労場所は医療機関に限らず多岐に渡っているが、介護保険施設は新卒看護師の就職先となっていない。今回、看護学生の就労先として介護保険施設を選択しない動機について調査し検討する。

【研究方法】看護学科3年生（68名）の「高齢者と福祉」の第1回授業の時に、同意を得た42名（66.7%）にGoogle Formsを使用して、職場選択を決定する時期とその理由、介護保険施設で働くことのイメージに関して、KH Coderによる計量テキスト分析を実施した。

【結果】看護学生は、まず看護師としての看護技術を病院の就労で習得しようと考え、その理由として高等教育で修学した知識や技術といった実践知を発揮する場として病院を選択していた。また、介護保険施設に対するイメージについては、「高齢者対応への困難さ」や「医療と福祉の違い」等、看護師の就労場所として否定的な意見が多くみられた。背景には介護保険施設と病院等で働く「看護師の質」といった病院と介護保険施設の相違を感じていた。

【考察】看護学生が、知識や技術の発揮できる場として、ケアマネジメント下での介護保険施設看護師の役割に気づき、治療のみではなく生活者の視点を見い出し、多職種との「協働」に着眼させる老年看護学実習が必要である。